

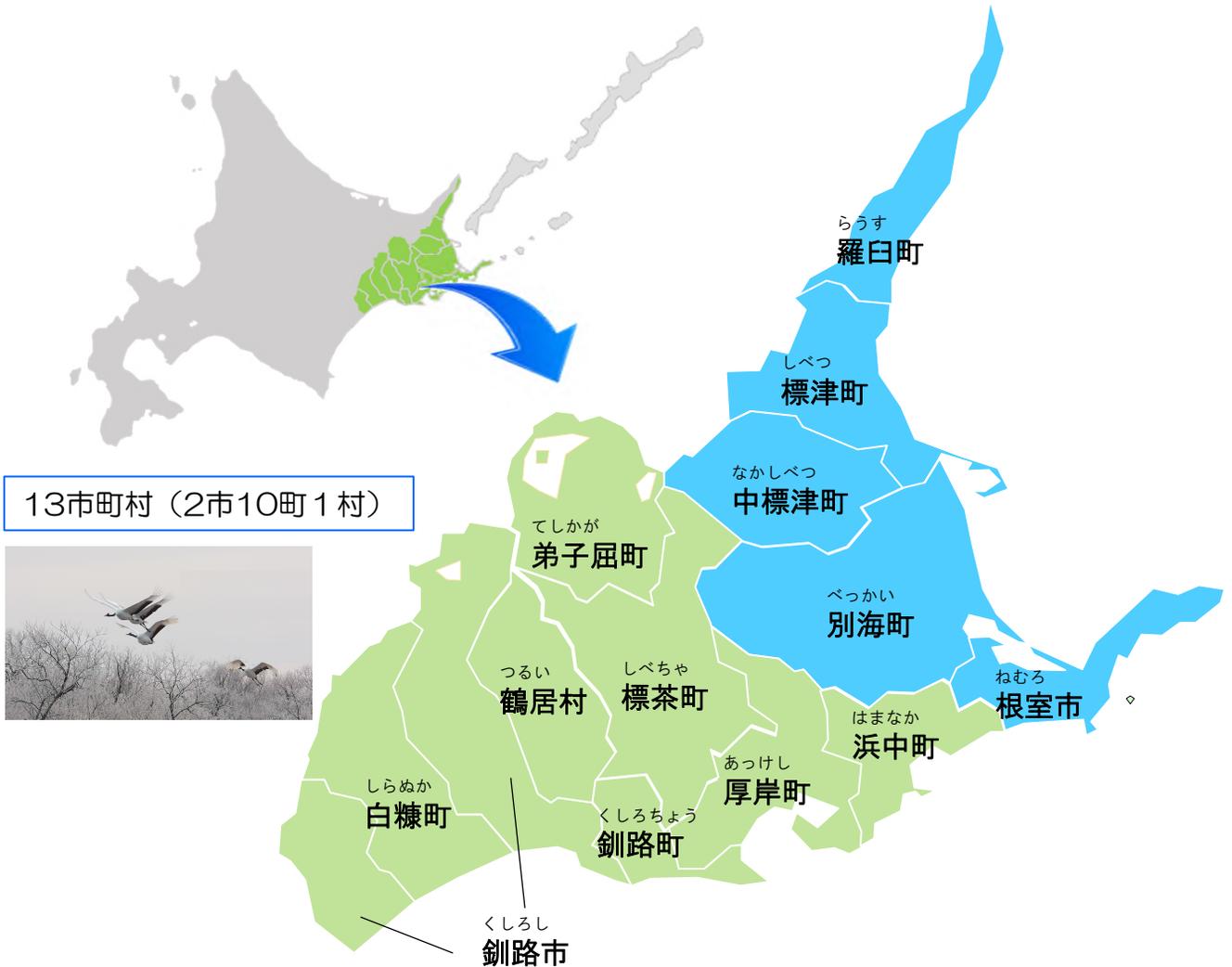
釧路・根室地域の概要



北海道農政事務所
釧路地域拠点

第1 地域の概況

- ◇位置：北海道の東部に位置し、北東部はオホーツク海に、南部は太平洋に面し、北部は千島火山帯の阿寒山系を境にしてオホーツク地域に、西部は直別川で十勝地域に接している。
- ◇気候：春から夏にかけて「じり」と呼ばれる霧が発生し、「湿潤冷涼な夏」は天然の避暑地になると同時に、湿原の乾燥化も防いでいる。秋冬には晴天の日が続き「乾燥寒冷な冬」となり、年間日照時間は国内有数の長い地域。沿岸部では海洋性気候、内陸部では大陸性気候を示し、年平均気温は、5℃～7℃と冷涼であり、オホーツク海域は、冬期間流氷に閉ざされ、厳しい寒気に見舞われる。
- ◇世界自然遺産に登録されている知床に加えて、阿寒・摩周、釧路湿原と3つの国立公園があるなど、森林、湖沼、海岸と豊かな自然に恵まれた地域となっている。



13市町村 (2市10町1村)



◇広大な牧草地を利用した道内でも屈指の酪農地帯

◇牧草専用地の面積は北海道の4割を占める

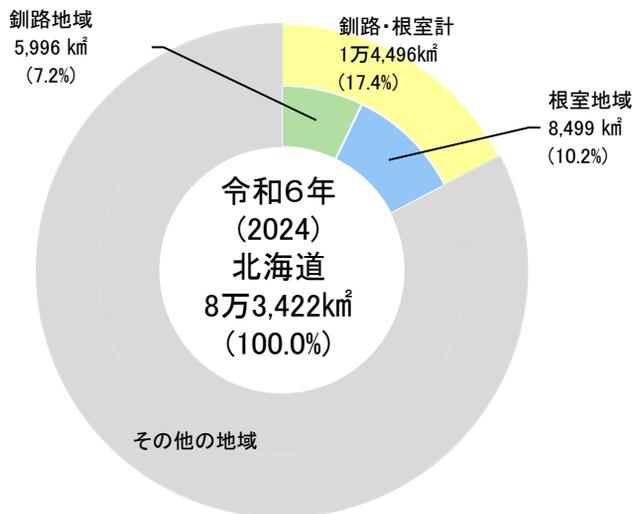


第1 地域の概況(つづき)

◇総土地面積は1万4,496km²(釧路地域：5,996km²、根室地域：8,499km²)で、北海道の17.4%(同：7.2%、同：10.2%)を占めている。

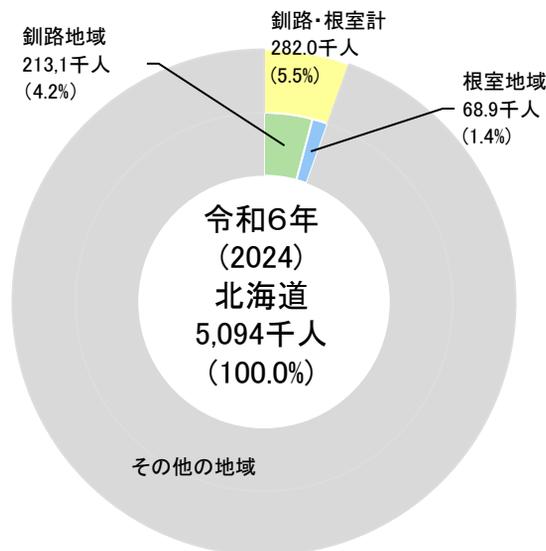
◇総人口は28万2千人(同：21万3千人、同：6万9千人)で、北海道の5.5%(同：4.2%、同：1.4%)を占め、総人口の約56%を釧路市(15万8千人)が占めている。

総土地面積



資料：国土交通省国土地理院「令和6年全国都道府県市町村別面積調(令和6年4月1日)」
注：四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある(以下同じ)。

人口割合



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和6年1月1日)」

第2 農業の概要

◇広大な牧草地(道内の4割)を利用した国内最大の酪農地帯である。

◇乳用牛の飼養頭数、生乳生産量で北海道のトップを誇り、地域の重要な基幹産業となっている。

◇労働力低減に向けた大型搾乳施設の更新、先端技術を取り入れた搾乳機器等の導入や、コントラクター(農作業受託団体)、TMRセンター^{*1}などの外部支援組織の設立などにより、1経営体当たりの乳用牛飼養頭数は増加しており、規模拡大が進んでいる。

※1 TMRはTotal Mixed Rationの略で粗飼料、濃厚飼料、添加物等をバランス良く混合した牛の飼料のこと。TMRセンターは、TMRを製造し、畜産農家に供給する組織



広大な放牧地で草を食んでいる子牛



牧草の収穫

1 農業構造の状況

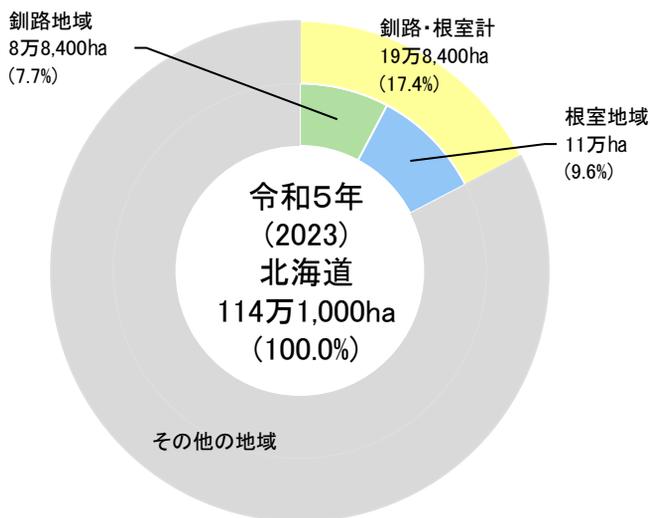
耕地面積

- 耕地面積は19万8,400ha（釧路地域：8万8,400ha、根室地域：11万ha）で、北海道の17.4%（同：7.7%、同：9.6%）を占めている。
- 市町村別の耕地面積は、別海町(31.9%)、標茶町(14.6%)、中標津町(12.3%)の順となっている。
- 牧草専用地の面積は17万2,429ha（同：7万2,306ha、同：10万123ha）で、北海道の41.4%（同：17.4%、同：24.1%）を占めている。
- 経営耕地面積^{※1}に占める牧草専用地の面積割合は88.5%、1経営体^{※2}当たりの牧草専用地面積は78.9ha（同：76.8ha、同：80.4ha）で、広大な草地を利用して粗飼料が生産されている。

※1 「2020年農林業センサス」結果による経営耕地面積(19万4,783ha)

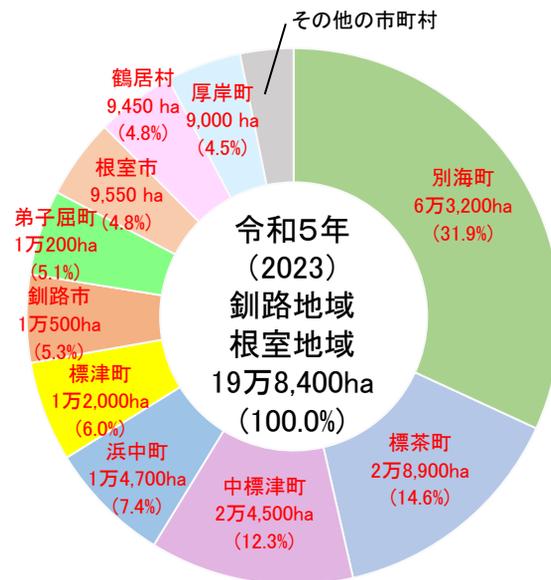
※2 「2020年農林業センサス」結果による牧草専用地のある経営体数(2,186経営体)

耕地面積の割合



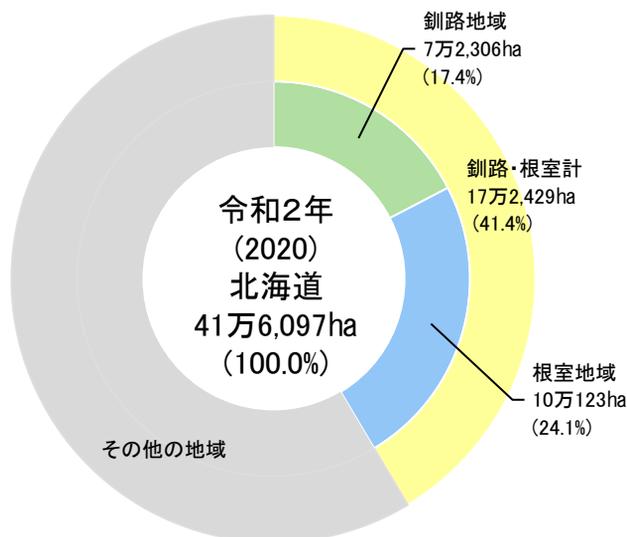
資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」、「農林水産関係市町村別統計」

市町村別耕地面積の割合



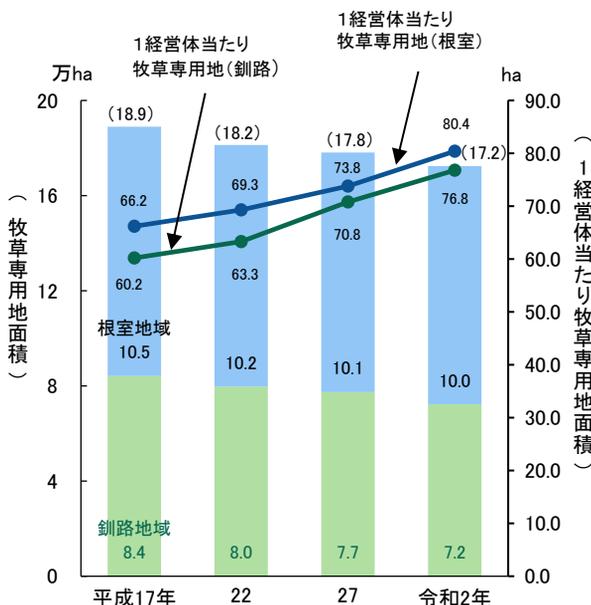
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

牧草専用地の面積割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

牧草専用地面積の推移



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」(肉用牛含む)

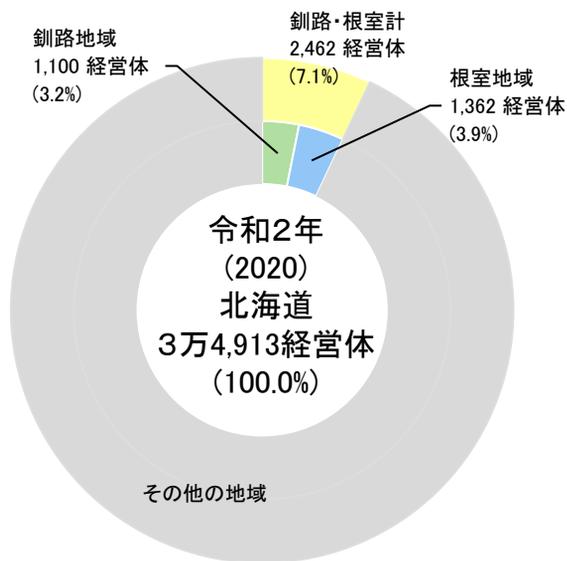
農業経営体

- 農業経営体数は2,462経営体（釧路地域：1,100経営体、根室地域：1,362経営体）で、北海道の7.1%（同：3.2%、同：3.9%）を占めている。
- 農業経営体数（2,462経営体）は、5年前の2,757経営体と比べて295経営体（10.7%）減少している。このうち法人経営体^{※1}数は449経営体で、5年前の354経営体と比べて26.8%増加している。
- 農産物販売金額1位の部門別経営体数は酪農（82.0%）が最も多く、次いで肉用牛（6.9%）の順となっている。
- 基幹的農業従事者^{※2}数は4,885人で、5年前（6,374人）に比べ23.4%減少し、年齢層別に49歳以下の青年層で23.0%減少、50歳～59歳以下の層では39.6%減少している。また、基幹的農業従事者の平均年齢は釧路地域が55.1歳、根室地域が53.5歳となっている。

※1 農業経営体のうち、法人化して事業を行う者（一戸一人を含む。）

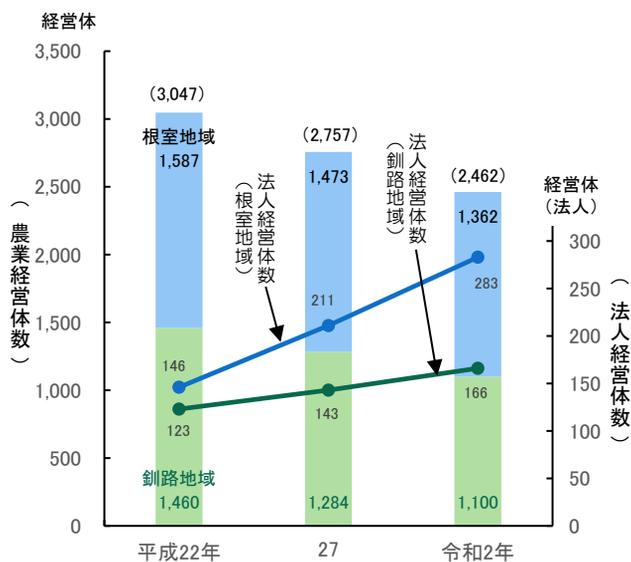
※2 15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

農業経営体数の割合



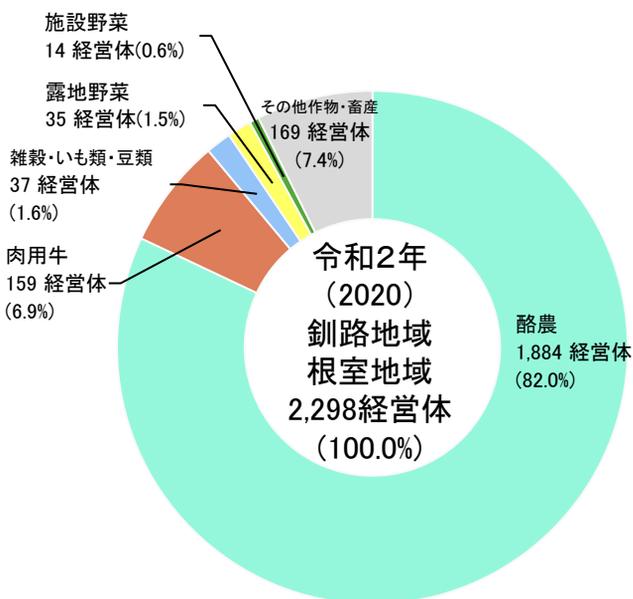
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

農業経営体数の推移



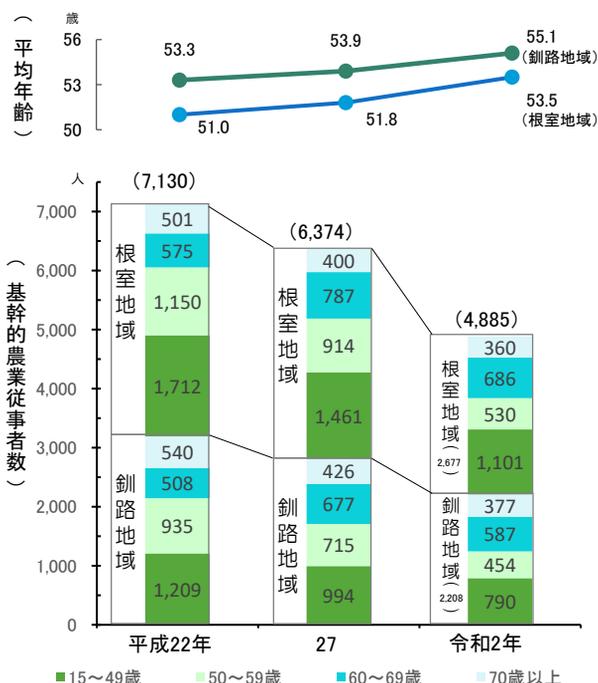
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

農産物販売金額1位の部門別経営体数割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

個人経営体の基幹的農業従事者数と平均年齢

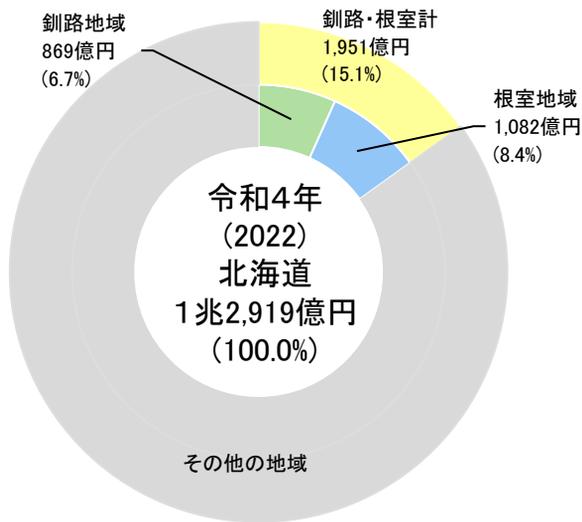


資料：農林水産省統計部「2020年農林業センサス」、「2015年農林業センサス」（組替集計）、「2010年世界農林業センサス」（組替集計）

農業産出額

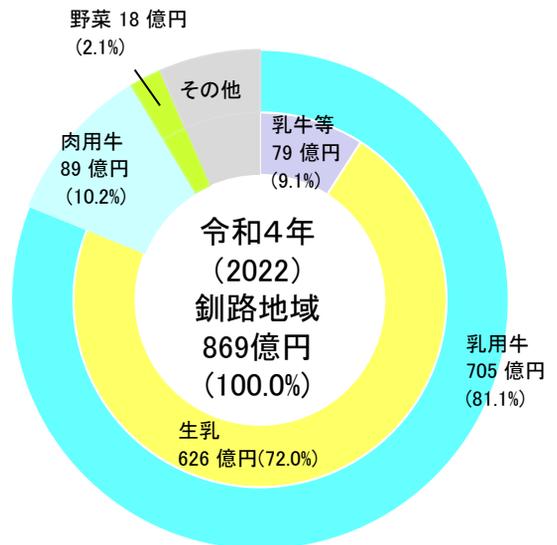
- 農業産出額は1,951億円（釧路地域：869億円、根室地域：1,082億円）で、北海道の15.1%（同：6.7%、同：8.4%）を占めている。
- 品目別では、乳用牛が1,715億円（同：705億円、同：1,010億円）と最も多く、このうち生乳は1,515億円（同：626億円、同：889億円）、生乳以外の乳牛（乳廃牛等）は200億円となっている。次いで肉用牛が120億円となっており、その他畜産を含めた畜産部門が全体の97.6%を占めている。
- 耕種部門では、施設野菜等の高収益作物が栽培されている野菜が25億円（同：18億円、同：7億円）と最も多く、その他として、小麦、そば、ばれいしょ等が生産されている。
- 市町村別の農業産出額は、別海町が最も多く625億（道内1位、全国4位）、次いで標茶町が281億円（道内4位、全国32位）、中標津町が245億円（道内8位、全国49位）の順となっている。
- ・「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。

農業産出額の割合



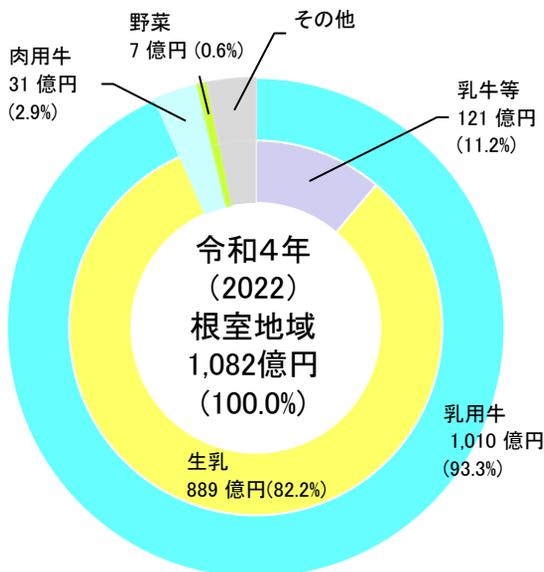
資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額（推計）」

品目別農業産出額の割合（釧路地域）



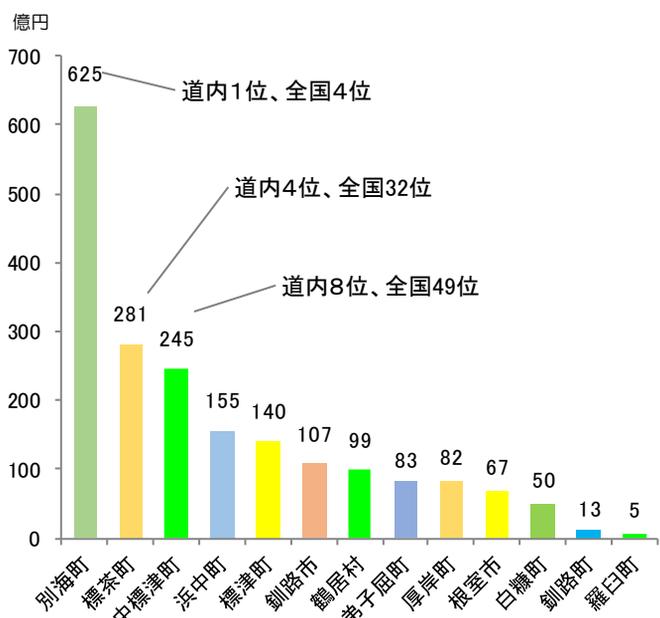
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」
注：その他には、麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、豚、鶏、その他畜産物が含まれている。

品目別農業産出額の割合（根室地域）



資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」
注：その他には、麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、豚、鶏、その他畜産物が含まれている。

地域内の市町村別農業産出額



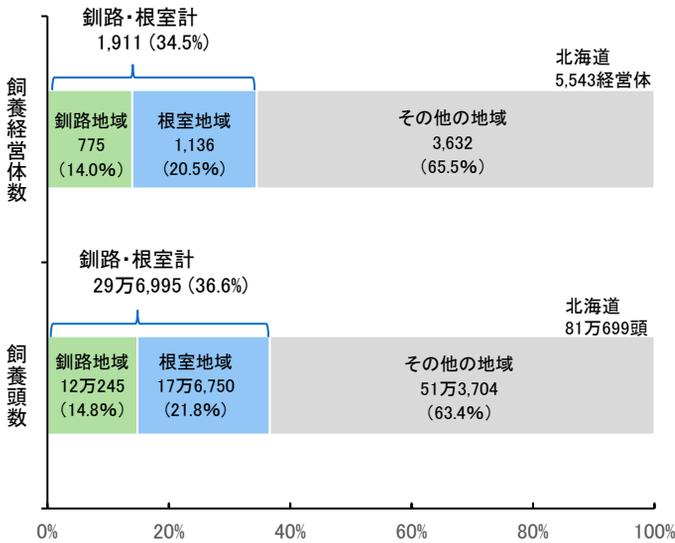
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

2 主要農畜産物の生産等の状況

乳用牛

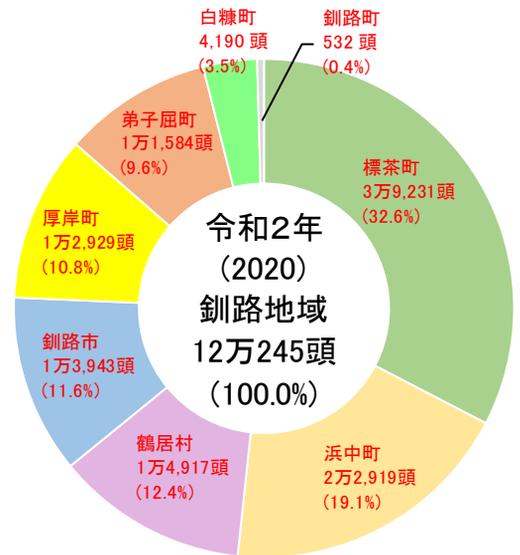
- ・乳用牛の飼養経営体数は、1,911経営体（釧路地域：775経営体、根室地域：1,136経営体）で、北海道の34.5%（同：14.0%、同：20.5%）を占めている。また、飼養頭数は29万6,995頭（同：12万245頭、同：17万6,750頭）で、北海道の36.6%（同：14.8%、同：21.8%）を占めている。
- ・市町村別の飼養頭数は、別海町が10万4,726頭と10万頭を超え道内第1位、次いで標茶町、中標津町の順となっており、道内順位の3位までを占めている。
- ・1経営体当たりの飼養頭数は、釧路地域で155頭、根室地域で156頭であり、1経営体当たりの飼養頭数は5年前と比べ、釧路地域で21.1%、根室地域で15.6%それぞれ増加している。

飼養経営体数、飼養頭数の割合（令和2年）



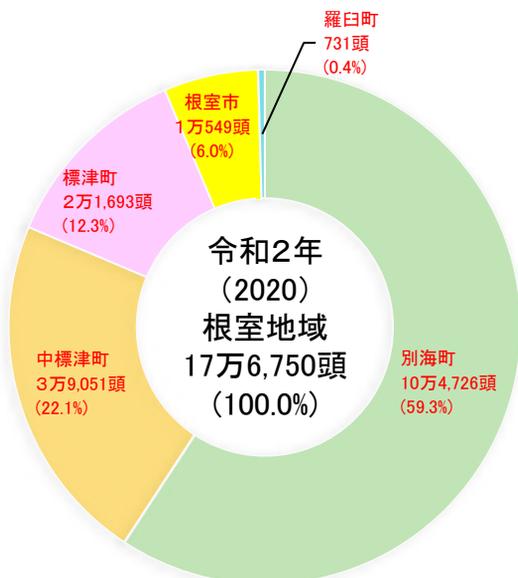
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

市町村別の飼養頭数割合（釧路地域）



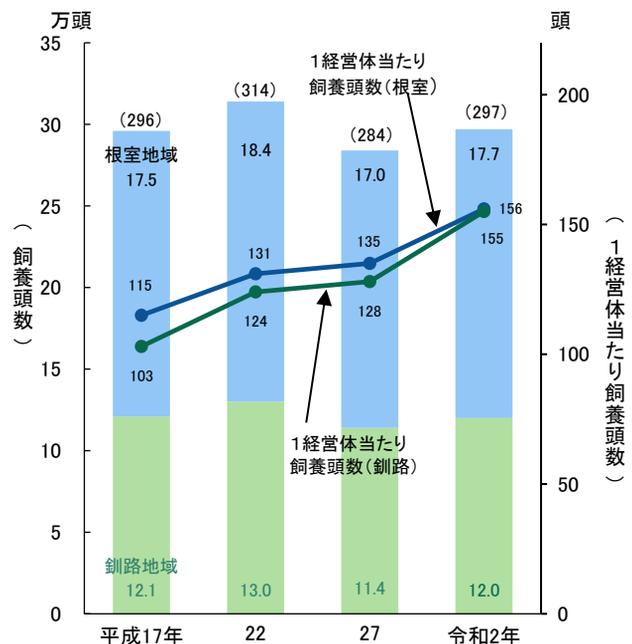
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

市町村別の飼養頭数割合（根室地域）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

飼養頭数の推移（釧路地域・根室地域）



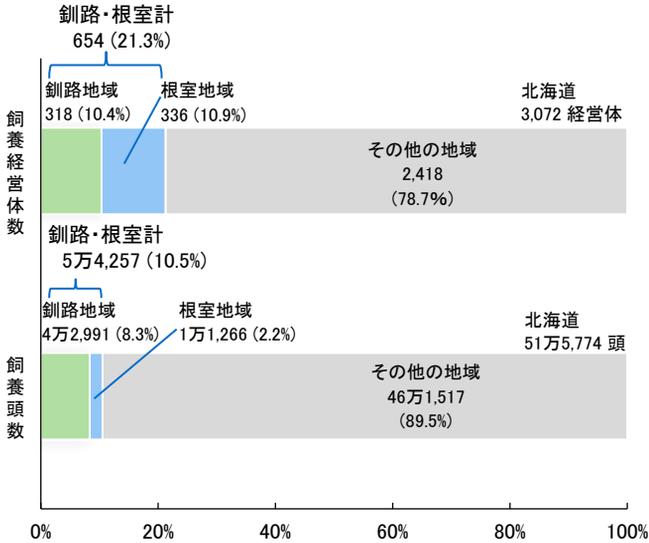
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

肉用牛

- 肉用牛の飼養経営体数は、654経営体（釧路地域：318経営体、根室地域：336経営体）で、北海道の21.3%（同：10.4%、同：10.9%）を占めている。また、飼養頭数は5万4,257頭（同：4万2,991頭、同：1万1,266頭）で、北海道の10.5%（同：8.3%、同：2.2%）を占めている。
- 市町村別の飼養頭数※は、多い順に標茶町、別海町、釧路市となっている。
- 1経営体当たりの飼養頭数は、釧路地域で135.2頭、根室地域で33.5頭となっている。

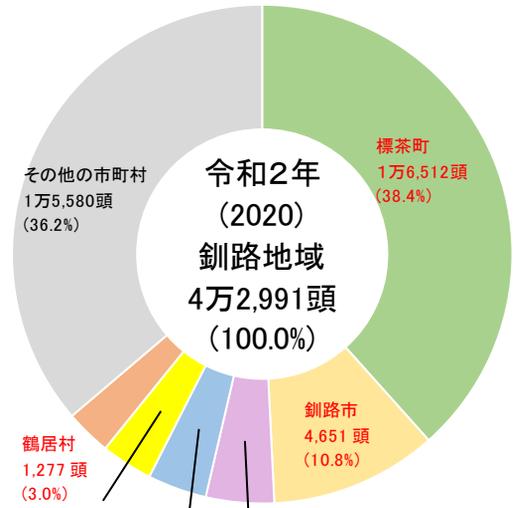
※飼養頭数は、秘匿のある市町村を除いて算出している。

飼養経営体数、飼養頭数の割合(令和2年)



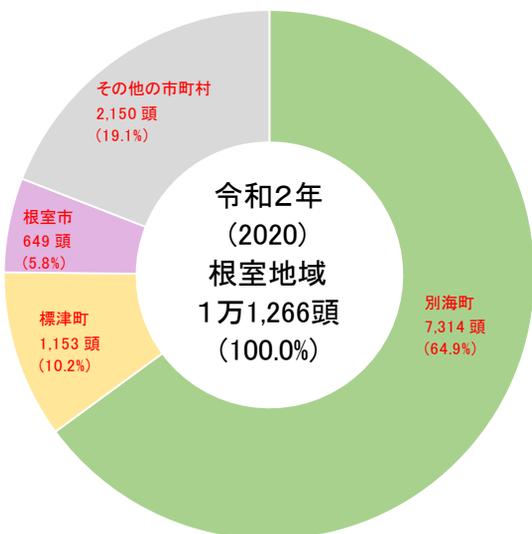
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

市町村別の飼養頭数割合(釧路地域)



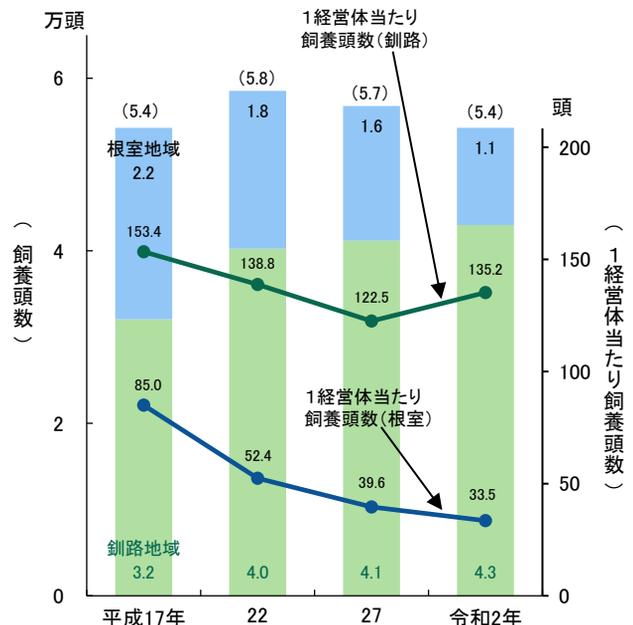
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

市町村別の飼養頭数割合(根室地域)



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

飼養頭数の推移(釧路地域・根室地域)



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

第3 地域の取組事例

1 地域と子ども達の協働による食農教育活動で地域を活性化

なかしべつ
中標津町

【牛との触れ合い体験】



【カボチャの植え付け】



【令和5年度ディスカバー農山漁村の宝で優秀賞・特別賞】

高校生の力で未来の農村を盛り上げる！ (北海道中標津農業高等学校)

中標津農業高等学校は、酪農を基幹産業とする中標津町へ恩返しをしたいと、管内(計根別地域)の子ども達に食農教育を行う活動を平成18年から始め、現在も継続中です。

「高校生が主体となって子ども達へ指導を行うこと」「日々の授業の学びと活動がリンクすること」「地域の全ての子どもに対して活動を行うこと」の3点を基本に、幼稚園児から中学生まで、毎年約200名の子ども達に対して、「酪農管理体験」「生乳を使ったアイスクリーム製造体験」「ばれいしょや小麦など町の特産品の栽培」「ハロウィンかぼちゃ栽培とランタン加工や飾り付け」などの体験教育を行っています。

体験教育を進めるにあたり、小・中学校の時間割に組み入れてもらうことが課題でしたが、話し合いを重ね、活動の趣旨を理解していただきました。また、食育学校・地域イベントサポーター(地域の企業や大人)は年々増加しており、地域と子ども達の協働による食農教育活動が展開されています。

先進的な食育モデルとして、道内外で注目される活動へと発展、今後は、町内の各学校との共催など活動の輪を広げ、若い力で主体的に地域農業を盛り上げ、農業を通じた地域の振興・活性化を目指しています。

令和5年には、長期的で独自性のある活動が評価され、「第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」で、コミュニティ・地産地消部門「優秀賞」に加え「特別賞」にも選定されました。

2 地域の特産品をブランド化することに成功

てしかが
弟子屈町

【カットされた摩周メロン】



【初出荷を祝う豊穰祭でのお披露目】

30年以上の歴史がある幻のメロン「摩周メロン」 (摩周メロン生産組合)

「摩周メロン」は30年以上前に生産が始まり、現在は町のふるさと納税の返礼品や郵便局のふるさと小包などに用いられ、地域団体商標に登録されるなど、町の特産品としてブランドを確立したメロンです。

雪溶けが遅いという弟子屈町の気象条件の中で「安定して高収益を上げられる農作物」としてメロン栽培に着目し、昭和60年に地元農家の有志17名で「摩周メロン研究会」を結成。昭和63年に「摩周メロン生産組合」に改め、メロンと野菜などの複合栽培を行いつつ経営安定を図っています。

年間約2万玉が出荷されますが、生産量が少なく、出荷先が限られるため、市場には出回らないことから幻のメロンとも呼ばれています。

3 自家産生乳を活用した6次産業化

あけし
厚岸町

【森高牧場の牛乳とチーズ】

自家産生乳を活用したチーズ、乳製品とスイーツの製造・販売 (森高牧場)

森高牧場は、昭和30年頃から飲用乳の販売を始め、平成9年には、ソフトクリームの販売を開始。平成19年、チーズ工房を併設した直売店舗の設置を機に、チーズの販売を開始しました。原料乳は、全て自家牧場で生産した生乳を使用しています。

チーズ工房を始めたのは、奥さんが体調を崩した時期があり、ご主人から気晴らしのためにチーズ作りを勧められたことがきっかけです。

牛乳やチーズは直売店舗で味わえるほか、ふるさと納税の返礼品としても取り扱われています。

平成29年2月、畜産クラスター事業の支援を受けた乳製品加工施設が完成。生乳の殺菌はプレート方式で行ない、安全性の高い商品を広い地域に届けるため120℃の高温殺菌で牛乳を作っています。

「厚岸町の住民から愛され購入される牛乳作り」を経営方針として製造販売を行なっています。



【牛乳工場】

4 数多くの酪農体験メニューで酪農の魅力をアピール

てしかが
弟子屈町

【体験牧場全景】

人と人との会話、ふれあいを大切に、命のあたたかさ・食料の大切さ・自然の大切さを学べる牧場 (有限会社渡辺体験牧場)

摩周湖、屈斜路湖などがあり、観光地としても有名な弟子屈町にある有限会社渡辺体験牧場は、アルバイト経験者から「良い経験ができた」との評判が、口コミで広がりを見せたことをきっかけに、平成9年に体験型牧場を立ち上げました。現在は、全国酪農教育ファームの認定を受けています。

体験メニューには「乳搾り・えさやり」「アイスクリーム・バター作り」「トラクターで大草原周遊」「子牛とのふれあい体験」などの多彩なメニューが用意され、命の温かさ、食の大切さ、人と自然との共生を学ぶことができます。

また、摩周草原の自家牧場でのんびり放牧した牛から搾った生乳を原料とした数多くの乳製品を製造販売しています。

修学旅行、企業の研修先としても利用され、「3年後に自分へ届く手紙」という新しい企画も好評を得ています。

多くの来場者を受け入れ、酪農のPRと地域の活性化に貢献することを目指しています。

令和元年には、酪農の普及・啓発の取組等が評価され、「第6回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の優良事例に選定されました。



【トラクター草原周遊】

5 担い手育成のため町・JA・民間事業者が共同出資

しべちや
標茶町

【株式会社 TACSしべちや全景】



【搾乳室(ミルクングパーラー)】

離農跡地を活用した草地型酪農の普及と研修施設併設による担い手育成の出資型法人 (株式会社TACSしべちや)

株式会社TACSしべちやは、離農者や出荷乳量の減少に歯止めをかけるために、標茶町農業協同組合、雪印種苗株式会社、標茶町が出資して平成25年に設立され平成27年から搾乳を開始しています。

成牛300頭、育成牛180頭規模のフリーストール牛舎、30頭規模の哺育舎、ミルクングパーラー(18頭ダブル)、餌寄せロボットなどを装備しています。施設整備は「強い農業づくり事業」、北海道の「地域づくり推進事業」を活用しました。農地は、約200haで、農地中間管理機構を通して借り受けています。

同牧場は、草地型酪農による低コスト経営を実践し、地域へ普及する役割を担うと同時に、新規就農者の研修施設としての役割も併せ持ち、担い手確保と育成にも貢献しています。

6 町内研修牧場の生乳を加工販売

べつかい
別海町

【製造された乳製品】



【海外での販売】

【べつかいのアイスクリーム】
(チョコレート・バナナ・抹茶)

製品に町名「べつかい」を使用し、べつかいブランドを確立！ 平成25年よりベトナムにアイスクリームを輸出！ (株式会社べつかい乳業興社)

株式会社べつかい乳業興社は、「主役は生乳」をコンセプトとして製品製造を行い、生乳は全て別海町産を使用しています。

原料として使う生乳の90%は、町の第三セクターである有限会社別海町酪農研修牧場(新規就農者育成牧場)で搾乳されたものを使用しています。

牛乳をはじめアイスクリームやバター、チーズ等の乳製品を製造し、べつかいブランドを確立。さらに、大手コンビニチェーンや道内の和洋菓子店等と連携し、新商品の製造・販売を通じて別海町を全国に大きくPRしています。

平成25年よりベトナムにアイスクリームの輸出を開始し、北海道貿易物産振興会、北海道アイスクリーム輸出促進協議会を通じて輸出販路の拡大を進め、ベトナムのほか、台湾やシンガポールへの輸出を確立しています。

平成28年には、地域全体での取組等が評価され、「第3回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」のグランプリに認定されました。

7 A2ミルクを国内で初めて商品化

なかしべつ
中標津町

【JA中標津乳製品工場】

【なかしべつ牛乳プレミアム】
～NA2MILK～JAが地域牛乳ブランドの製造拠点を担う
(JA中標津乳製品工場)

中標津町は、人口(22,440人【令和6年1月1日現在】)の約1.8倍(約4万頭)の乳用牛が飼養されている酪農中心の町にもかかわらず、「なぜ町内で生産された牛乳が飲めないのか」との町民の声を受け、平成13年にJA中標津が乳製品工場を建設しました。

平成23年には取組当初からの目標であった「学校給食」へ出荷を開始するとともに、近隣のJA標津、JAしべちからの飲用乳(学校給食用含む)製造を受託し、85°Cで15分間の殺菌処理の後、各々の地域へ牛乳を提供しています。

平成30年12月21日には、おなかに優しいとされるタンパク質「βカゼインA2」だけをつくる乳牛から搾った<NA2MILK>を国内で初めて商品化し販売を始めました。販売当初より、「おなかがゴロゴロしない」と普段牛乳が苦手な方にも大変好評です。1人でも多くの方に、おいしい「なかしべつ牛乳」を飲んでいただき、消費拡大につながるよう取り組んでいます。

8 北海道で南国の果物マンゴー栽培へ！

てしかが
弟子屈町

【収穫を迎えたマンゴー】



【マンゴーの花】

栽培面積を拡大しつつ、輸出にもチャレンジ
(株式会社ファームピープル)

釧路市で通信工事業を営んでいた村田光宗氏は、事業の経営が良好なうちに別の経営基盤を模索していたところ、一次産業の農業に着目。当時は、宮崎マンゴーが濃厚で美味しいと流行っていたことから、北海道でも南国の果物を栽培できれば面白いと思い、マンゴー栽培へのチャレンジが始まりました。

栽培には温泉熱を加温に利用したいと考え、湯温の高い弟子屈町で、平成23年に株式会社ファームピープルを設立、翌年には、自身で建設したビニールハウス2棟で試験的にマンゴーの栽培を開始。マンゴーは花を咲かせることが難しく、3年間には満足な成果が出ませんでした。知り合いを頼りに、鹿児島県のマンゴー栽培の専門家に指導を仰ぎながら、地道に栽培ノウハウを学びました。

温泉熱と冷涼な気候を利用して人工的に寒暖差をすることで、マンゴーの糖度を高めることに成功し、一般的にブランドとされる基準糖度15度を上回る糖度18度のマンゴーができるようになり、「摩周湖の夕日」のブランド名で地元販売はもとより、現在は弟子屈町のふるさと納税返礼品や郵便局のふるさと小包にも採用されています。

温泉熱の利用は、化石燃料を使用しない環境に優しい持続可能なクリーンエネルギーとして、二酸化炭素の排出削減に寄与し、環境負荷低減にもつながっています。

9 酪農家が自ら酪農業や地域(自然など)の魅力を発信

ねむろ
根室市

【農家レストランATOKO】

【和牛・根室短角牛の
サーロインステーキ】【小さな雑貨屋Étable
& 酪農喫茶GrassyHill】

窓から見える景観と、自社産生乳・短角牛肉を使用した料理を提供！酪農の魅力を伝える農家レストラン「ATOKO」！
(有限会社伊藤畜産)

有限会社伊藤畜産は、酪農・肉用牛経営を行いながら、農業の枠にとどまらず様々な取組で、酪農や地域の魅力を伝えています。

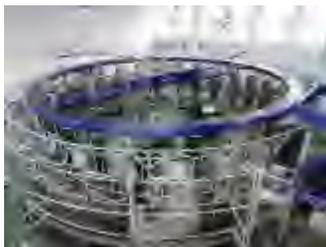
平成26年5月に農家レストラン「ATOKO」を開業。自社産短角牛肉を使ったステーキやハンバーグ料理等を提供しており、平成30年3月には、小さな雑貨屋Étable & 酪農喫茶GrassyHillをオープンし、自社生乳を使ったソフトクリーム・ケーキ・菓子も販売しています。

同世代の酪農家とともにフットパス※を整備することを中心に、キャンプ場、また、豚・ヤギ・羊などを放した「あつとこ家畜動物園」を併設するなど、地域の観光・交流の拠点として、牧場が持つ景観と安らぎを市民と共有することで地域の活性化を図っています。

農山漁村地域が持つ魅力を観光資源に活用した取組として、さらなる展開が期待されています。

※フットパス・・・イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径【Path】」のこと

10 アジア初「AMR」(オートマチックミルクロータリー)導入

なかしべつ
中標津町

【AMR本体】



【搾乳室】

AMR導入により労働力不足を解消し、若い人が働きたいと思える魅力ある農場づくりを目指す
(有限会社希望農場)

有限会社希望農場(搾乳牛260頭)は、畜産クラスター事業を活用し、ウィンドレス型フリーストール牛舎を新設するとともに、アジア初となるAMR(ロータリー型搾乳ロボット)を導入しました。

AMRは24ポイントロータリーの内側にアーム型ロボットが5台設置され、1日1,600回の搾乳が可能となっており、1日2回の搾乳で800頭、3回搾乳では533頭に対応可能な能力を有するほか、1回の搾乳につきスタッフ1名の対応で済むため、人件費の削減や労働力不足の問題解決が期待されています。また、AMRは個室型ロボットとは異なり、スタッフがパーラーへ牛を誘導する際に1頭1頭の牛の健康状態を確認することができるともAMR導入の決め手となっています。

佐々木代表取締役は「主役はあくまで『牛』であり、管理する人間はより高いマネジメント能力を求められるが、若い人が働きたいと思える農場を作っていくためにも、先進的な経営モデルの確立を目指したい」としています。

また、令和2年8月には、JGAP認証を取得し、従業員の経営意識の向上に取り組んでいます。

11 需要が増える酪農ヘルパー事業に民間事業者とJAの共同出資会社で対応

なかしへつ
中標津町

【有限会社 ファム・エイの皆さん】



【生乳検査】



民間人のノウハウで酪農ヘルパー事業を広域的に取り組み、独立採算制を確保

(有限会社ファム・エイ)

根室管内での酪農ヘルパー事業は、当初、各JAが単独で運営していましたが、組織的に弱小であり、事業運営の先行きに不安を持ったJA中標津、JA計根別が、ビルメンテナンス業等の請負作業にノウハウを持つ創業者の臼井氏に事業の引き受けを依頼しました。

平成元年、同氏と両JAが共同出資する形で、有限会社での酪農ヘルパー会社としては道内初となる「有限会社ファム・エイ」が設立され、平成3年にJA上春別（現JA道東あさひ上春別支所）、平成22年にはJA標津が加わり、計4JAと委託契約を締結しました。

各出資JAとタイアップし、農家のヘルパー利用を促進することで、業務の浸透・定着をはかると共に、安定した経営、運営基盤を確保すべく独立採算制を目指し、各出資JAと年間委託、人数契約を締結しています。

平成9年より新たな業務として生乳検査を開始し、各JAとの委託契約を結び、収益確保に対応しています。

近年は農業全体での人手不足もあり、農家からのヘルパー利用ニーズは大きいものの、ヘルパー要員確保が課題となっていました。このため、酪農ヘルパーに対する認知度を高めるべく、独自の取り組みとして滞在費を補助したインターンシップを導入して以降、新入社員を確保するなど、一定の成果を収めています。

12 困難と言われていた「酪農」と「障がい者」がパートナーシップ！

くしろ
釧路市【テープで色分けし使用
機具を明確化】

【牛舎内清掃・整備】



【ミルクカー装着】

【農福連携】牧場内作業の明確化・マニュアル化で障がい者雇用を実現

(有限会社仁成ファーム)

有限会社仁成ファームでは牧場の規模拡大に伴い、求人募集を行ったものの、人が集まりませんでした。そのような中、「農福連携」制度を知り、農業改良普及センターや市役所等に相談を行い、後に音羽協働センター（就労継続支援A型）を設立し代表となる梶野氏に出会い、酪農現場で可能な障がい者の労働内容について検討を重ねました。

平成29年11月に音羽協働センターが設立され、当該センターに搾乳室清掃作業を委託し、障がい者の受入れを開始しました。

委託当初は障がい者の度合いにより作業の習熟が難しいこともありましたが、曖昧な作業方法や手順を明確化して、作業の分割化・マニュアル化を行い、まずは、出来る人が作業を行うスタイルに変更しました。

その結果、障がい者雇用拡大として1名を社員として雇用できました。また、各作業を明確化したことにより、従業員、障がい者共に働きやすい環境ができたこと、作業中のリスク回避及び効率アップにも繋がりました。

今後は、会社の一部門として障がい者雇用を取り入れていく経営体になっていきたいと考えており、そのために、GAPの考え方を取り入れた安全な酪農経営の構築を目指し、個人の能力差を少しでも減らせるようにマニュアルの細かな見直しを行っていききたいとのことです。

13 第三者継承で新規就農 就農後3年でアイスクリーム販売を開始

てしかが
弟子屈町【原料となる生乳を生産する
ブラウンスイス種】【カチカチの食感にこだわった
アイスクリーム】酪農家になったことで、家族との時間が増える
(牧之瀬牧場)

弟子屈町で平成30年に新規就農した牧之瀬佳貴氏・智子氏夫妻は、カナダの大学で出会い、卒業後結婚し、千葉県に居を構え、サラリーマンとして東京に通勤。第1子出産がワークライフバランスを見直すきっかけになり、偶然入った北海道物産展で開催していた就農相談窓口で話を聞き、その後全国規模の就農相談会に参加し、弟子屈町に移住することを決意しました。

弟子屈町への就農の決め手は、美しい自然。生涯に渡り住み続けたいと思い、平成28年8月から弟子屈町内の牧場で研修を開始。平成29年5月から、第三者継承予定の牧場で研修後、平成30年4月に牧場を譲り受け新規就農。ホルスタイン種に加え、ブラウンスイス種、ジャージー種を導入し、昼夜放牧酪農を行っています。

異業種からの新規就農や研修期間中の生活費の不安がありましたが、国や北海道、町、JAの支援制度や周りのサポートがあり、不安がやる気になりました。就農後は労働時間や生活スタイルを変えずに副収入を得る方法を模索し、令和3年7月アイスクリームの製造販売を開始。製造は管内の業者に委託することで、労働時間の変化はなく、また、アイスクリームの差別化を図るため、ブラウンスイス種(通常1頭で製造最低ロットに満たない場合は2頭)の生乳しか使用しないことで差別化を図り、ふるさと納税返礼品にも選ばれる等、大変好評です。

酪農家になったことで、家族との時間も増え、ワークライフバランスを考慮した働き方が可能になり、今後は作業の効率化を図り、実労働時間を縮小、収益を向上させるシステムを構築していきたいとのこと。

14 バイオガス発電による環境負荷軽減の取組、新たな収益を確保

つるい
鶴居村

【伊藤デiry外観】



【バイオガスプラント全景】

厄介者だった家畜排せつ物がエネルギーに変わる
(株式会社伊藤デiry)

株式会社伊藤デiryは、大正8年に入植し、100年以上続く酪農家です。「休める酪農」を実現するため平成19年に法人化し、働いてくれる人が自分たちの仕事に誇りを持ち、酪農に携わってよかったと思える企業づくりと、日々、牛たちがリラックスして過ごせる環境づくりを行っています。

飼養頭数の増加に伴いフリーストール牛舎を導入しましたが、スラリー状の家畜ふん尿処理が必要となったため、令和元年にバイオガスプラントを建設し、稼働を開始しました。

メタン発酵により発生したガスをエネルギーとして利用した発電や、発電時に発生する余剰熱の利用、また、消化液を肥料として活用することで、これまで厄介者であった家畜排せつ物を活用した環境負荷軽減の取組につなげています。

併せて、発電した電気を売電することによる安定した収益と、資源循環によるコストの削減を実現しました。

市町村別の総土地面積、耕地面積、総人口等

市町村	総土地面積		耕地面積						総人口		世帯数		農業 経営体数	
	道内 シェア	道内 シェア	計	道内 シェア	田	道内 シェア	畑	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	道内 シェア	
	km ²	%	ha	%	ha	%	ha	%	人	%	戸	%	経営体	%
釧路地域	5,996	7.2	88,400	7.7	-	-	88,400	9.6	216,959	4.2	121,957	4.3	1,100	3.2
釧路市	1,363	1.6	10,500	0.9	-	-	10,500	1.1	160,483	3.1	92,919	3.3	151	0.4
釧路町	252	0.3	940	0.1	-	-	940	0.1	18,879	0.4	9,663	0.3	23	0.1
厚岸町	739	0.9	9,000	0.8	-	-	9,000	1.0	8,589	0.2	4,266	0.2	108	0.3
浜中町	423	0.5	14,700	1.3	-	-	14,700	1.6	5,411	0.1	2,490	0.1	203	0.6
標茶町	1,099	1.3	28,900	2.5	-	-	28,900	3.1	7,179	0.1	3,672	0.1	304	0.9
弟子屈町	774	0.9	10,200	0.9	-	-	10,200	1.1	6,699	0.1	3,784	0.1	136	0.4
鶴居村	572	0.7	9,450	0.8	-	-	9,450	1.0	2,485	0.0	1,206	0.0	97	0.3
白糠町	773	0.9	4,790	0.4	-	-	4,790	0.5	7,234	0.1	3,957	0.1	78	0.2
根室地域	8,499	10.2	110,000	9.6	-	-	110,000	12.0	70,087	1.4	34,806	1.2	1,362	3.9
根室市	408	0.5	9,550	0.8	-	-	9,550	1.0	23,546	0.5	12,151	0.4	105	0.3
別海町	1,317	1.6	63,200	5.5	-	-	63,200	6.9	14,372	0.3	6,817	0.2	750	2.1
中標津町	685	0.8	24,500	2.1	-	-	24,500	2.7	22,729	0.4	11,456	0.4	355	1.0
標津町	625	0.7	12,000	1.1	-	-	12,000	1.3	4,952	0.1	2,359	0.1	143	0.4
羅臼町	398	0.5	734	0.1	-	-	734	0.1	4,488	0.1	2,023	0.1	9	0.0
北方地域	5,003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：国土交通省国土地理院「令和6年全国都道府県市区町村別面積調(令和6年4月1日)」北方地域の総土地面積は歯舞群島、色丹村、泊村、留夜別村、留別村、紗那村、羹取村の合計。

農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計(令和5年)」、「2020年農林業センサス」

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和6年1月1日現在)」

注：ラウンドの関係で、計と内訳は一致しない場合がある。

風連湖は水面が境界未定のため、根室地域の総土地面積に含まれているが根室市・別海町の総土地面積には含まれていない。

市町村別の農業産出額(推計)

単位:1,000万円

市町村	農業産出額		耕 種										畜 産							
			小 計		米	麦 類	雑 穀	豆 類	い も 類	野 菜	工 芸 農作物	其 他 作物	小 計		肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	其 他 畜産物
	道内 順位	道内 順位	道内 順位	道内 順位																
釧路地域																				
釧路市	1,072	42	50	126	-	0	-	0	0	36	-	14	1,023	19	90	826	737	x	29	x
釧路町	126	146	86	108	-	-	-	-	-	85	0	0	41	122	7	33	30	-	-	0
厚岸町	820	57	0	169	-	0	-	-	-	0	-	0	820	28	29	790	714	-	-	0
浜中町	1,549	20	8	151	-	-	-	-	-	-	-	8	1,541	10	51	1,411	1,278	x	-	x
標茶町	2,805	4	62	118	-	-	0	-	-	55	-	6	2,743	2	404	2,154	1,864	-	0	185
弟子屈町	832	56	84	109	-	8	5	1	41	2	23	2	748	35	46	685	610	x	-	x
鶴居村	988	50	2	164	-	-	0	0	-	0	-	1	986	22	29	904	814	x	0	x
白糠町	501	84	3	161	-	-	-	0	0	2	0	1	499	50	231	243	215	-	0	25
根室地域																				
根室市	666	69	4	158	-	-	-	0	0	1	-	3	662	40	17	643	580	0	0	3
別海町	6,253	1	27	138	-	1	4	-	-	4	-	x	6,226	1	202	5,913	5,177	0	1	111
中標津町	2,452	8	124	99	-	4	7	0	36	58	7	12	2,327	4	58	2,249	1,986	x	0	x
標津町	1,399	23	19	140	-	0	4	-	2	8	1	5	1,380	13	28	1,248	1,101	x	-	x
羅臼町	47	159	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47	119	0	47	43	-	-	-

資料：農林水産省統計部「令和4年市町村別農業産出額（推計）」

注1：「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業算出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。

注2：その他農作物は、果実、花き及びその他作物の計であり、秘匿措置が講じられている品目を除いて単純に合算したものである。